

海外渡航者の医療機関受診状況調査

福島 慎二

海外勤務健康管理センター

【目的】海外勤務者が健康な生活を送るには、安心して受診できる現地医療機関の存在が不可欠である。そこで我々は、海外勤務者における現地医療機関の受診状況と受診する際の問題点を明らかにする目的で今回の調査を実施した。

【方法】調査1調査対象は1998年4月から2001年3月までに、海外勤務健康管理センターで帰国後健診(一時帰国を含む)を受けた20歳以上の海外勤務者及びその家族1671名。アンケート方式(選択)で調査を行った。質問の内容は、1:現地医療機関受診の有無、2:受診の際の問題点である。調査2調査対象は2002年11月から2003年10月までに、海外勤務健康管理センターで帰国後健診(一時帰国を含む)を受けた海外勤務者及びその家族393名。インタビューで調査を行った。質問の内容は、1:現地医療機関受診の有無、2:受診の際の問題点、3:医療費の支払い方法等である。一家族は一人(一単位)として扱った。

【結果】調査1調査対象者1671名のうち有効回答者は1283名であった。平均年齢は42.7歳(24~70歳)。男性850名,女性430名。先進国301名,途上国982名。現地医療機関を受診した者は818名(63.8%)。先進国63.6%,途上国64.1%であった。受診にあたり、なんらかの問題があると答えたのは354名(43.3%)。先進国35.8%,途上国45.6%であった。調査2調査対象者の平均年齢は42.9歳(24~70歳)、平均滞在期間は35ヶ月。先進国は125名,途上国268名であった。派遣元は民間企業が331名,政府関係55名であった。現地医療機関を受診した者は306名(77.9%)であった。先進国は99名,途上国は207名。受診した病名は呼吸器疾患が147名と最も多く、健康診断69名,消化器疾患63名と続いた。受診経験があった306名のうち、受診の際に何等かの問題があると答えたのは189名(61.8%)だった。地域別にみると、先進国67.7%,途上国58.9%であった。問題点の内容としては、医療システムに関するものが最も多く、次いで、言葉、医療レベル、医療費、薬と続いた。先進国では言葉に関して、途上国では医療システムに関する問題が最も多かった。

【結論】今回の調査対象となった日本人に関しては、現地で医療機関を受診している者が比較的多かった。しかし医療システムや医療レベルの面で困ったり、不満を感じる者が多く、今後はこの種の情報を海外渡航者に提供する必要があるものと考えられた。

The problems of medical facilities abroad for Japanese expatriates
SHINJI FUKUSHIMA
Japan Overseas Health Administration Center, Yokohama, Japan